



「書写のかぎ」一覧

▼ 姿勢・持ち方

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
姿勢 (硬毛)	① たのしくかこう もじをかくしせい ・あしべたぴんとん さあかこう。	① 楽しく書こう 文字を書くしせい ・足べたぴんとん さあ書こう。	① 毛筆の学習を始めよう 書きやすいしせいと、筆記具の持ち方 ・足べたぴんとん さあ書こう。	① 学習のじゅんぴをしよう 書きやすいしせいと、筆記具の持ち方 ・足べたぴんとん さあ書こう。	① 学習の準備をしよう 書きやすい姿勢と、筆記具の持ち方 ・足べたぴんとん さあ書こう。	① 学習の準備をしよう 書きやすい姿勢と、筆記具の持ち方 ・足べたぴんとん さあ書こう。
筆記具の 持ち方 (硬筆)	① たのしくかこう かきやすいもちかた ・えんぴつのもちかた	① 楽しく書こう 書きやすいもちかた ・えんぴつのもちかた				
筆記具の 持ち方 (毛筆)			① 毛筆の学習を始めよう 書きやすいしせいと、筆記具の持ち方 ・筆は、えん筆よりもじくを立てて持つ。 ・二本がけの持ち方、一本がけの持ち方 ・毛筆で書くときの線の太さは、筆圧によってかわる。 ・ほ先の向きはいつも同じ。	① 学習のじゅんぴをしよう 書きやすいしせいと、筆記具の持ち方 ・筆は、えん筆よりもじくを立てて持つ。 ・二本がけの持ち方、一本がけの持ち方	① 学習の準備をしよう 書きやすい姿勢と、筆記具の持ち方 ・筆は、えん筆よりもじくを立てて持つ。 ・二本がけの持ち方、一本がけの持ち方	① 学習の準備をしよう 書きやすい姿勢と、筆記具の持ち方 ・筆は、鉛筆よりもじくを立てて持つ。 ・二本がけの持ち方、一本がけの持ち方

▼ 点画・筆使い

	1年	2年	3年
始筆・送筆・ 終筆	② ひらがなのかきかた かきはじめとかきおわり (「とめ」「はらい」) ・止め 「とん」「びたっ」 ・払い 「とん」「すうっ」		② 「横画」 ③ 「たて画」と「点」 ④ 「おれ」 ⑥ 「はらい」 ⑦ 「曲がり」と「反り」 ⑧ ひらがな
止め (終筆)	② ひらがなのかきかた かきはじめとかきおわり (「とめ」「はらい」) ・びたっ ③ かたかなのかきかた 「とめ」「はね」「はらい」と「おれ」「まがり」 ・びたつととめる。 ④ かん字のかきかた 「とめ」「はね」「はらい」 ・びたつととめる。	② かたかなの書き方 「止め」「はね」「はらい」と「おれ」「まがり」 ・びたつと止める。	
はね (終筆)	③ かたかなのかきかた 「とめ」「はね」「はらい」と「おれ」「まがり」 ・とめてから、ぴよんとはねる。 ④ かん字のかきかた 「とめ」「はね」「はらい」 ・とめてから、ぴよんとはねる。	② かたかなの書き方 「止め」「はね」「はらい」と「おれ」「まがり」 ・止めてから、ぴよんとはねる。	
払い (終筆)	② ひらがなのかきかた かきはじめとかきおわり (「とめ」「はらい」) ・すうっ ③ かたかなのかきかた 「とめ」「はね」「はらい」と「おれ」「まがり」 ・すうつとはらう。 ④ かん字のかきかた 「とめ」「はね」「はらい」 ・はらい (左) すうつとはらう。 ・はらい (右) とめてから、すうつとはらう。	② かたかなの書き方 「止め」「はね」「はらい」と「おれ」「まがり」 ・すうつとはらう。	

▼ 点画・筆使い

	1年	2年	3年
横画		③ かん字の書き方 点画の名前 ・横画	② 「横画」 ・始筆 筆圧に注意しながら、えん筆や筆をおく。「とん」 ・送筆 筆圧をかえずに書き進める。「すう」 ・終筆 軽くおさえて止める。「びたつ」
縦画		③ かん字の書き方 点画の名前 ・たて画 書き終わりははねることもあるよ。	③ 「たて画」と「点」 ・始筆 筆圧に注意しながら、えん筆や筆をおく。「とん」 ・送筆 筆圧をかえずに書き進める。「すう」 ・終筆 軽くおさえて止める。「びたつ」
左払い		③ かん字の書き方 点画の名前 ・左はらい	⑥ 「はらい」 ・始筆 「とん」とおく。 ・送筆 筆圧をだんだん弱くする。 ・終筆 軽くおさえて止める。「びたつ」 ※線は、筆圧が弱いと細く、強いと太くなる。
右払い		③ かん字の書き方 点画の名前 ・右はらい	⑥ 「はらい」 ・始筆 軽く「とん」とおく。 ・送筆 筆圧をだんだん強くする。 ・終筆 いちど止めてから、筆圧をだんだん弱くする。 ※線は、筆圧が弱いと細く、強いと太くなる。
点		③ かん字の書き方 点画の名前 ・点	③ 「たて画」と「点」 ・始筆 筆圧に注意しながら、えん筆や筆をおく。「とん」 ・送筆 筆圧をかえずに書き進める。「すう」 ・終筆 軽くおさえて止める。「びたつ」
折れ	③ かたかなのかきかた 「とめ」「はね」「はらい」と「おれ」「まがり」 ・びたつととめて、むきをかえる。 ④ かん字のかきかた 「おれ」「まがり」「そり」 ・びたつととめて、むきをかえる。	② かたかなの書き方 「止め」「はね」「はらい」と「おれ」「まがり」 ・びたつと止めて、むきをかえる。 ③ かん字の書き方 点画の名前 ・おれ 書き終わりははねることもあるよ。	④ 「折れ」 ・おれるところで、いちど止める。そこから進む方向をかえて書く。
反り	④ かん字のかきかた 「おれ」「まがり」「そり」 ・すこしふくらませるようにかく。	③ かん字の書き方 点画の名前 ・そり	⑦ 「曲がり」と「そり」 ・止めないで、全体を少しふくらませるように書く。

▼ 点画・筆使い

	1年	2年	3年	4年
曲がり	<p>③ かたかなのかきかた 「とめ」「はね」「はらい」と「おれ」「まがり」 ・とめないで、ゆっくりむきをかえる。</p> <p>④ かん字のかきかた 「おれ」「まがり」「そり」 ・とめないで、ゆっくりむきをかえる。</p>	<p>② かたかなの書き方 「止め」「はね」「はらい」と「おれ」「まがり」 ・止めないで、ゆっくりむきをかえる。</p> <p>③ かん字の書き方 点画の名前 ・まがり</p>	<p>⑦ 「曲がり」と「そり」 ・止めないで、進む方向をかえる。</p>	
曲がり (平仮名)	<p>② ひらがなのかきかた 「まがり」 ・ゆっくりむきをかえる。「くうっ」</p>			

▼ 点画・筆使い

	1年	2年	3年	4年
折れ・折り返し (平仮名)	<p>② ひらがなのかきかた 「おれ」 ・ぴたっととめて、むきをかえる。</p>			<p>⑧ ひらがな (折れ・折り返し) ・「折れ・折り返し」は、いちど止めて、進む方向を変えて書く。 ・折り返すときは、書いてきたところを少しもどるように書く。</p>
結び (平仮名)	<p>② ひらがなのかきかた 「むすび」 ・よこながのむすび さかなのかたちにくるり。 ・たてながのむすび おむすびのかたちにくるり。</p>			

▼ 書くときの動き

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
筆順	<p>② ひらがなのかきかた かくじゅんじょ</p> <p>④ かん字のかきかた ひつじゅん ・上からかく。 ・左からかく。</p>	<p>③ かん字の書き方 ひつじゅんのきまり ・上から書く。 ・左から書く。 ・形が同じ部分は、同じひつじゅんで書く。</p>	<p>⑤ 筆順の決まり ・筆順の決まりにそって書くと、次の画にうつりやすい動きになるので、字形が整う。 ①「横画」と「たて画」が交わるときは、「横画」を先に書く。 ②「横画」と「たて画」が交わるときに、「たて画」を先に書くこともある。「田」や「王」など ③中と左右の部分があって、左右の画数が少ないときは、中を先に書く。 ④かこむ形の文字のときは、外がわを先に書く。 ⑤「左はらい」と「右はらい」があるときは、「左はらい」を先に書く。 ⑥ほかの部分をつきぬける「たて画」は、最後に書く。 ⑦ほかの部分をつきぬける「横画」は、最後に書く。</p>	<p>④ 筆順と字形 「横画」と「左はらい」が交わる時 ・「横画」を先に書くときは、「横画」が短く、「左はらい」が長くなる。 ・「左はらい」を先に書くときは、「左はらい」が短く、「横画」が長くなる。</p>		
点画のつながり					<p>⑤ ひらがな（点画のつながり） ・正しい筆順で、次の点画へのつながりを意識してなめらかに書くと、字形が整う。</p> <p>⑥ 点画のつながりと接し方 ・二つの画の始筆どうしが接するときは、先に書く画が少し出るように、点画のつながりを意識して書く。</p>	<p>③ 点画のつながり ・点画の終筆から、次の点画の始筆へ、空中でなめらかにつなげるような動きで書くと、字形が整いやすい。</p> <p>⑥ ひらがな（文字と文字のつながり） ・文字の終筆から次の文字の始筆へ空中でなめらかにつなげるような動きで書くと、字形が整いやすい。</p>
書く速さ						<p>④ 書く速さ 場面や目的に合わせて、速さを考えて書く。 ・話を聞きながら書くときなど、時間が限られているときは、速く書く。 ・読む相手がいるときなど、読みやすさを考えて書くときは、ていねいにゆっくり書く。</p>

▼ 字形

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
外形	<p>④ かん字のかきかた 文字のかたち ・たてながい。 ・よこなながい。 ・たてとよこながなじくくらい。</p>	<p>③ かん字の書き方 文字の形 ・文字のだいたいの形を考えて書くと、ととのった文字になる。 ・たてが長い。・横が長い。・たてと横が同じくらい。 ・中が広い。・上が広い。・下が広い。</p>					

▼ 字形

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
点画の長さ	<p>4 かん字のかきかた かくのながさとむき</p> <ul style="list-style-type: none"> • かくのながさやむきに気をつける。 	<p>3 かん字の書き方 画の長さ</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「横画」がいくつかあるときは、一つの画を長く書くととのう。ほかの画は、だいたい同じ長さにする。 		<p>2 画の長さの間かく</p> <ul style="list-style-type: none"> • 同じ方向の画が二つ以上あるときは、その一つを長く書く。 <p>4 筆順と字形</p> <p>「横画」と「左はらい」が交わる時</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「横画」を先に書くとときは、「横画」が短く、「左はらい」が長くなる。 • 「左はらい」を先に書くとときは、「左はらい」が短く、「横画」が長くなる。 		<p>7 字形の整え方</p> <ul style="list-style-type: none"> • 同じ方向の画が複数あるときは、その一つを長く書く。 • 文字の中で、一つの画や一組の画を強調して長く書くと、字形が整いやすい。 • 複数の「横画」があるとき「横画」の一つを長く書く。 • 複数の「縦画」があるとき中央の「縦画」を長く書く。 • 複数の「左はらい」があるとき下の「左はらい」を長く書く。 • 「横画」と左右の「はらい」があるとき左右の「はらい」を長く書く。 • 「横画」と「曲がり」があるとき「曲がり」を長く書く。 • 「横画」と「反り」があるとき「反り」を長く書く。
点画の間隔		<p>3 かん字の書き方 画のむきと、画と画の間</p> <ul style="list-style-type: none"> • 画と画の間を同じくらいの広さにあける。 		<p>2 画の長さの間かく</p> <ul style="list-style-type: none"> • 同じ方向の画が三つ以上あるときは、画の間かくを同じくらいの広さにあける。 		<p>7 字形の整え方</p> <ul style="list-style-type: none"> • 画の間隔は、同じくらいの広さにあける。 • 同じ方向の点画が複数あるときとなり合う点画どうしの間隔を、同じくらいの広さにあける。
点画の方向	<p>4 かん字のかきかた かくのながさとむき</p> <ul style="list-style-type: none"> • かくのながさやむきに気をつける。 	<p>3 かん字の書き方 画のむきと、画と画の間</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「横画」をだいたい同じむきにそろえて書く。 <p>3 かん字の書き方 「おれ」のむきと「はらい」のむき折れ</p> <ul style="list-style-type: none"> • 真下におれる。• 内がわにおれる。 左払い • 左横にはらう。 • ななめ左にはらう。 • まっすぐ書いて、とちゅうからはらう。 • まっすぐ書いて、さいごだけはらう。 		<p>3 画の方向（左はらい）</p> <ul style="list-style-type: none"> • 二つの「左はらい」が文字の下の方にあるときは、終筆の方向を近づける。 • 二つの「左はらい」が文字の下の方にないときは、終筆の方向を近づけない。 		<p>7 字形の整え方</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「折れ」の縦画部分と横画部分の長さのちがいによって、縦画部分の方向が変わる。 • 「折れ」の横画部分が縦画部分より短いとき左右の縦画部分を、平行に書く。 • 「折れ」の横画部分が縦画部分より長いとき左右の縦画部分の下の方を、内側に向けて書く。
点画の接し方・交わり方		<p>3 かん字の書き方 画のつき方と交わり方</p> <ul style="list-style-type: none"> • 画と画がはなれている。 • 画と画がついている。 • 画と画が交わっている。 			<p>6 点画のつながりと接し方</p> <ul style="list-style-type: none"> • 二つの画の始筆どうしが接するときは、先に書く画が少し出るように、点画のつながりを意識して書く。 	
組み立て方（左右の部分）				<p>5 組み立て方（左右の部分）</p> <ul style="list-style-type: none"> • 左右の部分それぞれせまくする。 • 左右の部分の点画が重ならないように、「へん」の右側をそろえる。 <p>7 いろいろな組み立て方</p> <ul style="list-style-type: none"> • 画数が少ないほうの部分、せまく書くことが多い。 		
組み立て方（上下の部分）				<p>6 組み立て方（上下の部分）</p> <ul style="list-style-type: none"> • 上下の部分それぞれ平たくする。 • 上下の部分の点画が重ならないように、点画の形や方向を変えて書く。 <p>7 いろいろな組み立て方</p> <ul style="list-style-type: none"> • 画数が少ないほうの部分、平たく書くことが多い。 		
組み立て方（たれ）				<p>7 いろいろな組み立て方</p> <ul style="list-style-type: none"> • 中の部分を、文字の中心より少し右によせて書く。 		
組み立て方（にょう）				<p>7 いろいろな組み立て方</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「にょう」の上に乗る部分の右側が少しあくように、「右はらい」を長く書く。 	<p>2 組み立て方（にょう）</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「にょう」の上に乗る部分の右側が少しあくように、「にょう」の「右はらい」を長く書く。 	

▼ 字形

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
組み立て方 (かまえ)				⑦ いろいろな組み立て方 ・中の部分を少し小さく書く。		
組み立て方 (三つの部分)						② 組み立て方 (三つの部分) ・点画が重ならないように、左・中・右の部分をせまくしたり、上・中・下の部分を平たくしたりする。 ・点画の方向や終筆の形が変わることもある。
文字の中心		③ かん字の書き方 文字の中心 ・たて画が中心。 ・点が中心。 ・画がつくところが中心。 ・横画のまん中が中心。				

▼ 配列

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
行の中心				⑨ 行の中心と行間 ・文字の中心をそろえると、行の中心が整う。 ・外形のはばの中心が、文字の中心になる。 ・横書きの場合は、外形の高さの中心が文字の中心になる。	⑧ 行の中心 (小筆) ・文字の中心をそろえると、行の中心が整う。 ・外形のはばの中心が文字の中心になる。	
文字の大きさ (文字相互の 大きさ・用紙 に対する文字 の大きさ)			⑨ 文字の大きさと字間 ・となりの行の文字と重ならないように、けい線のはばよりも少し小さく書く。 ・ひらがなは漢字よりも少し小さく書く。 ・まず目に書くときも、まずの大きさよりも少し小さく書く。		③ 漢字どうしの大きさ ・画数の少ない漢字や、「口」や「口 (くにがまえ)」のような囲む形の漢字は、ほかの漢字よりも小さく書く。 ⑦ 分かりやすく効果的に伝える書き方 情報を分かりやすく効果的に伝えるには、文章の内容だけでなく、文字をどのように書き表すかということも大切である。 文字の大きさ ・用紙に合った大きさの文字で書く。 ・題名や見出しなどは、目立つように大きく書く。 配列 ・用紙の上下や左右に余白を作る。	⑤ 用紙に合った文字の大きさ ・用紙のはしに文字を書かないように、上下と左右に必ず余白を作る。 ・書くところの広さや書く文字数から、文字のだいたい大きさと書く位置を考える。 ⑧ 文字の大きさと配列 (小筆) ・上下と左右に必ず余白を作る。
字間・行間			⑨ 文字の大きさと字間 ・字間 (文字と文字の間) は、同じくらいの広さにそろえてあける。	⑨ 行の中心と行間 ・行間 (行と行の間) は、同じくらいの広さにそろえてあける。 ・行間は、字間 (文字と文字の間) よりも広くすると読みやすい。	⑦ 分かりやすく効果的に伝える書き方 情報を分かりやすく効果的に伝えるには、文章の内容だけでなく、文字をどのように書き表すかということも大切である。 配列 ・同じこう目の書きだしの位置をそろえる。 ・内容のまとまりごとに行間を広くあける。	⑧ 文字の大きさと配列 (小筆) ・字間は、同じくらいの広さにそろえてあける。 ・行間は、同じくらいの広さにそろえてあける。 ・行間は字間よりも広くする。行間は、文字の大きさに応じて決める。

▼ 筆記具

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
筆記具と用紙					④ 目的に合った筆記具 筆記具の特ちょうを知って、場面や目的に合わせて使い分ける。 ①何に書くのか。(紙や布など) ②どのくらいの大きさの文字を書くのか。 ・大きな文字を書くときは、太く書ける筆記具を選ぶ。 ・小さな文字を書くときは、細く書ける筆記具を選ぶ。 ③色を使い分けるかどうか。 ④消すことがあるかどうか。 ・何度か書き直すときや下書きをするときなどは、消すことができる筆記具を選ぶ。 *筆記具だけでなく、何に書くのかも、目的に合わせて選ぶ。 ⑦ 分かりやすく効果的に伝える書き方 情報を分かりやすく効果的に伝えるには、文章の内容だけでなく、どのように文字を書き表すかということも大切である。 筆記具 ・目立たせたいところは、文字を太く書いたり、色を変えたりできる筆記具を使う。	